

☆県立養護学校問題 看護協会 虎井会長に聞く

日本海新聞 2015年7月12日

<http://www.nnn.co.jp/news/150712/20150712004.html>

> 鳥取県立鳥取養護学校（鳥取市江津）で看護師が一斉辞職し、医療的ケアが一時的にできなくなった問題は、県看護協会などの協力でケアが再開して11日で1カ月。直接語ることのなかった看護師の立場から見た問題の背景などを同協会の虎井佐恵子会長に聞いた。

－問題をどう捉えているか。

「厳しい指摘のあった保護者の対応で辞めたと報道されているが、それはきっかけ。辞める罪悪感でいっぱいだったようだ。失望していたのは問題が起きた際、学校の組織的な対応が無かったこと。危機管理体制が弱いと感じた」

－看護師らの訴えの中心は。

「普段から保護者、学校、看護師の3者が同じテーブルで話し合える場を要望していた。看護師は医療的ケアだけする“処置屋”ではない。保護者と信頼関係を築く場を組織として設けてほしかった」

「どの子にも家族の意向通りのケアを全てするよう学校から求められていたというが、学校は家ではない。看護師は医師の指示の下、学校のタイムスケジュール内で、どの子もきちんと授業が受けられるケアの医学的判断ができる。もちろん保護者の意向は聞いた上で、学校でのケアの必要性などの判断は看護師にさせてほしいと思う」

－協会として望むことは。

「子どもに関わる人がチームになって、保護者、教員、看護職が情報共有できる機会を設けてほしい。各専門職で注意点、評価点が違うので、その子の全体像がより分かるようになる」

「人数確保は当然だが、数合わせだけで終えてほしくない。リーダーとなる看護師だけでも正規雇用とし、責任を持って全体を見回せる体制をつくってもらいたい」

－問題をどう生かす。

「教育と医療的ケアの両立という埋もれた問題点が長く見えぬままだった。看護師の対応に反省すべき点はあったかもしれないが、3者の連携ができていれば問題に発展しない。看護師が理解者として寄り添え、子どもたちが登校して楽しく安心して授業が受けられる環境を確保できるよう協力したいし、看護師の専門性が発揮できるように整えたい」

…などと伝えています。



「先生、保護者、看護師がチームになれる体制をつくるのが改善の道」と話す虎井会長

＝鳥取市江津の県看護協会